

令和元年度 自己評価

I 「保育の計画性」についての検証及び改善策

今年度も保育の計画は学年リーダーを中心に子どもの実態に合わせて計画され、状況に合わせて臨機応変に保育に活用出来ていた。全体的に幼稚園教育要領についての理解度が低く、教職員間で話し合いをする機会が少ないと感じられる。今後は幼稚園教育要領や園の教育課程についての理解を深め、教職員間で話し合いの場を増やしていきたい。

II 「保育への在り方、幼児への対応」についての検証及び改善策

子どもの健康と安全への配慮は引き続き各教職員の評価が高く、視診や検温が適切に行われている。教職員全員が全ての子どもについて理解できるよう情報交換の場や手段を考えて情報共有し、クラスや学年に関係なく子どもや保護者への言葉かけや対応ができています。

III 「保育者としての資質や能力・良識・適正」についての検証及び改善策

各教職員が保育者としての能力・良識を身に付けることができている。子どもや保護者へはもちろん、教職員間でも明るく親しみを持った挨拶をすることができ、健康面や安全性への確認、整理整頓等お互いに意識し、声掛けをし合うこともできている。

IV 「保護者への対応」についての検証及び改善策

引き続き、怪我・トラブル・クレーム処理最優先に加え、ヒヤリハットの情報も職員間で共有し、大きな怪我や事故に繋がらないように各職員が注意を払うことが出来ている。保護者への支援も教職員間での話し合いを元に教育相談を行ったり、子どもの様子をママに伝える等行うことができおり、各教職員の評価も高い。

V 「地域の自然や社会との関わり」についての検証結果及び改善策

園庭開放を通じて子育て支援や地域開放を行うことができているが教職員個人での地域・自然との関わりや指導計画の中への地域の自然や機関の位置づけが難しいと感じられる。小学校との関わりや卒園した子どもの情報を得たいという気持ちはあるが実際には評価が低くなっている為、今後は小学校の教育内容への理解や連携にも努めていきたい。

VI 「研修と研究」についての検証結果及び改善策

経験年数に応じた専門知識を高める研修に各教職員が参加し、情報交換を行うこともできている。子どもを取り巻く環境や最近多く見られるアレルギーや発達支援の研修については意欲的に研修することができているが幼小連携や危機管理の研修については興味はあるが実際には参加することができず評価の低い教職員も見られる。今後機会があれば様々な研修に参加する機会を増やしていきたい。